

第31回麻布環境科学研究会 一般演題2

麻産業の再生の便益及び研究課題

パトリック・コリンズ

麻布大学 生命・環境科学部 環境経済学研究室

近年、様々な環境問題の対策として、欧州、カナダ、米国、日本などに麻という植物の農業の再生が望ましいと理解している人が増えている。歴史学者は近年、米国の中央政府の失敗した1920年代のアルコールの禁止政策の後で、大手企業の既得権益のために麻の利用を法律で押さえた。その時、アメリカの農業の一番重要な作物だった。

日本の場合、縄文時代以後この魅力的な植物は大いに利用されていたがマッカーサー政権は麻を1948年に違法にした。第二次世界大戦まで、麻は二万五千製品の材料として使われて、「危ない」や「使わない方がいい」などの話はなかった。

近年、バイオマス、バイオ燃料、紙と生地生産に木とコットンの変わりの繊維、栄養分が多い油、結

晶品、プラスチック、ガンにも効果がある自然的な薬、などの便益が非常に多いと世界中の研究者は証拠を集めている。昔から、麻の農業の便益がそんなに多かったから各国に法律はだんだん緩和されるようになって、この環境にいい植物の利用は又増えることになっている。

今年度から、共同研究員の赤星栄志博士と一緒に設計している環境と経済の観点から面白い研究プロジェクトを説明する。

田舎の経済と社会の再生への貢献

バイオ燃料のインフラストラクチャー

紙と生地と燃料と薬などの輸入依存性の削減

福島の人災のためのガンの流行の対策

等など